

日本ビジネス実務学会 会報 74号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies, No. 74

発行日/2021年3月31日発行

編集/日本ビジネス実務学会(広報委員会)

事務局/〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98 藤田医科大学
医療科学部医療経営学領域内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

《ブロック研究会活動報告号》

会長あいさつ

「ビジネス実務の未来が過去完了形で語られるであろう年」

会長 米本倉基(藤田医科大学)



これまで我々は多くの場で、ずっとビジネス実務の未来を語ってきましたが、今思えば語られた未来は常に未来だったような気がします。ところが、新型コロナ禍は、語られてきたビジネス現場の未来形を現在進行形へと劇的に引き寄せました。そしてすぐ先のポストコロナ時代ではこれまでの未来形を過去完了形で

ってもその中身はまったくの「昭和おじさん」だったわけです。つまり、ビジネス実務を探求し、教える立場の者として、ビジネス実務の未来をあたかも占い師のように語っているだけでは、もうその役割を担うことができないことを真正面から受け止める必要があると思っています。

語っていることでしよう。

この身近な証左として各ブロックの研究会はすでにオンラインが当たり前となり、参加者数や内容は充実し、しかも運営もスムーズです。この変化を少なくとも私は1年前に予測していませんでした。実は口では未来を語

学会として以上を踏まえ、とにかくニュー・ノーマル時代に合った道しるべとなる教科書づくりが最優先と考えました。公募式のプロジェクト助成を立上げ、北九州市立大学の見館好隆先生をリーダーに『新しいキャリア・デザイン』を半年という短期間で出版していただきました。今後も時代の潮流スピードに遅れをとらないように、①ブロックや研究領域を横断した、未来を先取りする研究プロジェクトの創設と助成、②オンラインを活用した海外の研究者・実務家との交流、③研究手法・論文執筆スキル向上のための研修セミナーの常設とバージョンアップ、④他学会とのコラボ企画を即応体制で進めて参りたいと思います。今後も何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



CONTENTS

会長あいさつ	1
ブロック研究会活動報告	
北海道ブロック、関東・東北ブロック	2
中部ブロック、近畿ブロック	3
中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック	4
各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡・新入会員の紹介・第40回全国大会のご案内	5

ブロック研究会活動報告

研究発表一覧の矢印(→)以降に示された番号は次の研究対象領域を示しています(詳しくは学会HPをご参照ください):【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討 2) ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発 3) 教育方法の研究、【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務 2) 人材育成と能力開発。

また、運営委員一覧は2021年3月現在のものです、◎はブロックリーダー、○はサブリーダーを示しています。

北海道ブロック

●2020年度 ブロック研究会

日時: 2021年 2月19日(金)
会場: ホスト 札幌国際大学 Zoomによる遠隔方式
のべ参加人数: 12人

●研究発表一覧

千葉里美(札幌国際大学)
「産業界と連携した観光産業への職業教育の実践と成果
-日本航空グループとのプログラムを事例として-」
→【1】の2)

和田早代(札幌国際大学短期大学部)
「地方大学における地方創生の取り組み-実践例を中心として-」
→【2】の1)

神野由香里(北海道科学大学)
「組織の一員として適応するために必要な要因の検討
-インターンシップ経験者へのインタビュー事例から-」
→【2】の2)

●トークセッション: テーマ「コロナ禍におけるインターンシップ」

札幌国際大学 千葉里美先生が話題提供者となり、これまでのインターンシップの歴史と意義に関する基礎データを提示した後、これからのインターンシップはどうあるべきかについての意見交換を行いました。コロナ禍で、対面型・中長期インターンシップの実施が困難になる一方、1day インターンシップやオンライン型インターンシップが急増した1年でしたが、教育効果はどうだったのか、曲がり角に来ている日本の大学におけるインターンシップが今後どう展開することが望ましいのかなど、活発な討議が行われました。

●総括: 2020年6月には北海道ブロックが担当し、学会初のZoomによる全国大会を無事開催することが出来ました。あれから8か月。いまだに感染者数が減らないまま年度末を迎え、ブロック研究会もオンライン開催となりました。発表後のトークセッションにおいて、コロナ禍で様々な制約をうけたインターンシップについて情報交換をしました。参加者から、様々な課題に対して、知見だけでなく、できることに少しずつ取り組んでいく勇気をいただきました。小規模ながらも、こうした研究会が参加者の連帯感を取り持つことに一役買っていることを実感し、次につなげていく力となりました。

●運営委員一覧

◎加藤由紀子(北海商科大学)

○千葉里美(札幌国際大学)

和田早代(札幌国際大学短期大学部)

高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)

官尾昌子(北海道武蔵女子短期大学)

岩瀬聡子(国際カラーデザイン協会)

田澤早苗(株式会社ニトリ)

関東・東北ブロック

●第47回関東・東北ブロック研究会

日時: 2021年2月13日(土)
会場: Zoomによる遠隔方式
のべ参加人数: 40人

●研究発表一覧

山口憲二(医療創生大学)
「企業による景況見込みはどれくらい当たるか」
→【2】の1)

●実践事例報告一覧

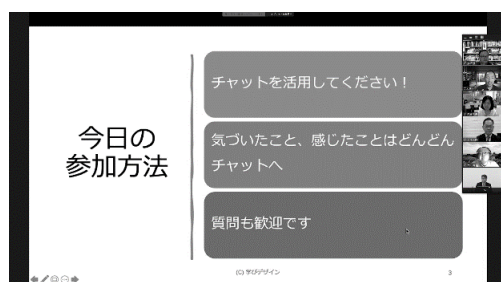
安齋徹(清泉女子大学)
「大学と地方の新しいカタチ~「聖地巡礼インターン」
という試み」
→【1】の2)

金世煥(医療創生大学)
「ポストコロナ時代における産業構造の変化とそれに伴う就活指導方法の変化」
→【1】の3)

堀良平(聖和学園短期大学)
「キャリアデザインにおける地元企業へのインタビュー
の取り組みについて」
→【1】の1)

●基調講演

荒木博行氏(株式会社 学びデザイン)
「リモート時代の授業設計」



Zoom 配信の様子

●研究助成報告

小里千壽(金沢学院大学)、
松崎陽子(仙台青葉学院短期大学)
「インターンシップの精度を上げる事前事後授業と
ワークシートの研究」

●総括: 今年度は2度の運営委員会とブロック研究会を全て遠隔方式で開催しました。研究発表・実践事例報告は計4題で2部屋に分かれて行いました。基調講演はオンラインでケースメソッドについて実践を伴った講演に参加できました。ケーススタディとの違いが明確になったのはもちろんですが、何よりもチャットの積極併用、

マイクオン映像オンという、今までの学会での常識を根底から覆すライブ感に満ちた 60 分を体感できました。当日の概要はブロック会報にまとめ、他ブロック会員の皆さまにもご覧いただく予定です。

●運営委員一覧

- ◎宮田篤 (青森中央短期大学)
- 齋藤裕美 (多摩大学)
- 関憲治 (昭和女子大学)
- 大島武 (東京工芸大学)
- 大塚映 (湘北短期大学)
- 上岡史郎 (目白大学短期大学部)
- 金世煥 (医療創生大学)
- 小松由美 (福島学院大学短期大学部)
- 周藤亜矢子 (常磐短期大学)
- 坪井明彦 (高崎経済大学)

中部ブロック

●2020 年度 ブロック研究会

日時：2021 年 2 月 20 日 (土)
会場：Zoom による遠隔方式
のべ参加人数：32 人

●研究発表一覧

- 坂上牧子 (金城大学短期大学部)
「ゼミ生による高校生面接対策講座の実践報告」
→【1】の 3)
- 米本倉基 (藤田医科大学)
「医療系専門学科間におけるコミュニケーション・スキルの違いとチーム教育」
→【1】の 2)
- 奥村実樹 (金沢星稜大学)
「経営学説教授法に関する一考察」
→【1】の 3)

●ミニシンポジウム

- テーマ「コロナ禍のビジネス実務と教育」
- 進行：手嶋慎介 (愛知東邦大学)
- コメンテーター：加納輝尚 (昭和女子大学)
- 実践報告：
貝掛祥広 (九州共立大学)
「観光関連業界とビジネス教育」
- 堂野崎融 (九州共立大学)
「オンラインの実務 - 簿記・会計教育のこれから」
- 梶山亮子 (千葉経済大学短期大学部)
「現場から見る VUCA の時代のキャリア形成支援のこれから」
- 西川三恵子・正田淳一他
(九州共立大学共同研究チーム代表)
「大学間連携のこれから」

●総会

日時：2021 年 2 月 20 日 (土)
会場：Zoom による遠隔方式
のべ参加人数：46 人 (委任状 20 人を含む)

●総括：新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が続く中、総会・ブロック研究会ともに、初めてのオンライン開催となりました。会員間の直接的なコミュニケーションの難しさがある一方で、他ブロックから参加しやすい、一部だけでも参加できる等のメリットも見出されました。

●運営委員一覧

- ◎中川雅人 (中部学院大学)
- 岡野大輔 (金城大学)
- 奥村実樹 (金沢星稜大学)
- 坂田裕介 (藤田医科大学病院)
- 山本恭子 (名古屋学芸大学)

近畿ブロック

●第 57 回近畿ブロック研究会

日時：2021 年 2 月 27 日 (土)
会場：遠隔事務局 (Zoom による遠隔方式)
のべ参加人数：21 人

●研究発表一覧

- 高松直紀 (大阪樟蔭女子大学)
「自己理解のキャリア教育が女子大学生のキャリア意識に与える影響について—進路選択に対する自己効力の視点から—」
→【1】の 1)
- 兒島尚子 (大阪樟蔭女子大学)、若生真理子 (滋賀短期大学)、苅野雅美 (プール学院短期大学)、樋口勝一 (甲子園短期大学)
「キャリア教育・就職支援に秘書技能検定が果たす役割～3 級の分類を通して」
→【1】の 3)
- 湯口恭子 (近畿大学)
「大学 1.2 年生におけるキャリア探索の促進要因～レジリエンスに着目して」
→【1】の 2)

●研修会

「コロナ禍における各大学等の遠隔授業の取組」
(講師) 小無啓司先生 (元流通科学大学教授、理学博士、専門は教育システム、理論物理学、物理教育)

●その他の活動報告：助成研究中間報告

北村雅昭 (大手前大学)
「大学生を対象としたキャリア・アダプタビリティ尺度の開発」

●総括：近畿ブロックとしては初のオンライン開催でしたが、大過なく終わることができました。参加者が例年より少なめでしたが、制約のある状況の中、充実した内容で実施することができました。

●運営委員一覧

- ◎樋口勝一 (甲子園短期大学)
- 福井就 (大手前学園)
- 坂本理郎 (大手前大学)
- 掛谷純子 (京都女子大学)
- 水野武 (摂南大学)
- 高松直紀 (大阪樟蔭女子大学)
- 仁平直 (神戸国際大学附属高等学校)
- 北村雅昭 (大手前大学)
- 苅野正美 (プール学院短期大学)

中国・四国ブロック

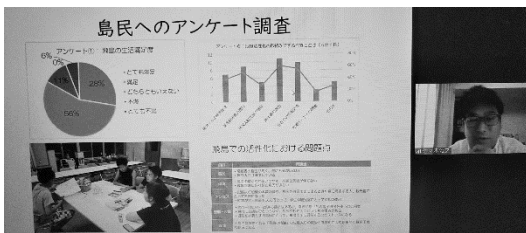
●第37回中国四国ブロック研究会

日時：2020年8月29日（土）
会場：四国大学短期大学部（Zoomによる遠隔方式）
のべ参加人数：15人

●研究発表一覧

佐々木公之（中国学園大学）
「笠岡市飛島での地域活性化 PBL と教育効果」
→【1】の3）
名和晋也（岡山県立津山商業高等学校）
「『秘書技能検定を用いた職業観の資質・能力育成』
→2校での生徒質問紙調査より比較・分析・考察」
→【1】の3）

●ワークショップ・ゲストスピーカーによる講演などは
今回、中止。



Zoomによる研究発表の様子

●その他の活動報告

同日に第15回学生プレゼンテーション大会
（Zoomによる遠隔方式）
山陽女子短期大学1名、中国学園大学1名、安田女子大
学6名、徳島文理大学短期大学部1名（実家の台湾から
参加）、広島女学院大学1名の合計10名の学生が参加。
詳細についてはブロック会報・第34号をご覧ください。

●総括：8月開催ということもあり、まだ遠隔方式でチャ
レンジをするには手探りというところまで、ごく控えめ目
なブロック研究会となりました。そのなかで特筆すべき
は学生プレゼンが大盛況であり、海外参加の学生も含め、
大変スムーズに進行したことです。

●運営委員一覧

◎堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
○関由佳利（高松短期大学）
吉田順子（広島女学院大学）
加渡いづみ（四国大学短期大学部）
佐々木公之（中国学園大学）
佐藤麻衣（高松短期大学）

九州・沖縄ブロック

●第63回九州・沖縄ブロック研究会

日時：2021年2月13日（土）
形式：オンライン（Zoomによる遠隔方式）
のべ参加人数：22人

●研究発表一覧

井上奈美子（福岡県立大学）
「宝塚歌劇団における革新による持続的成長」
→【2】の1）
武村順子（宮崎学園短期大学）・
柳田健太（宮崎学園短期大学）
「技能実習生の雇用管理に関する考察」
→【2】の1）
見館好隆（北九州市立大学）・河合晋（岐阜協立大学）
「外国人技能実習生のキャリア形成支援の考察—キャリ
ア形成を阻害する要因を視座にしたM-GTAによる分析—」
→【2】の2）

●ワークショップ・ゲストスピーカーによる講演など

「ニューノーマル時代のオンライン授業について」
講師：田口真奈氏
（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

●その他の活動報告

第40回全国大会準備状況

（第1回大会実行委員会：2021年2月13日開催）
・2021年6月12日（土）・13日（日）の2日間、オンラ
イン形式（Zoom）での開催を決定
・「2020年度ビジネス実務研究助成」対象者に対し、全国
大会での発表申込を依頼
・第2号通信にて参加申込方法、基調講演等について告
知（4月上旬配信予定）

●総括：オンライン全国大会を見据え、初のオンライン
での研究会開催となりました。基調講演をいただいた田
口真奈講師（京都大学）も京都から、参加者も北海道か
ら鹿児島まで全国各地から研究会に集うことができたの
もオンラインならではのメリットでした。田口講師の基
調講演は、前半は国内外のオンライン授業の現状と効果
的な授業法について、後半のグループワークではブレ
イクアウトセッションでMiroを用いた体験型ワークの実
践でした。巧みなファシリテートにより参加者相互の活
発な意見交換が行われ、研究会の満足度も4.83（5段階
評価）と盛会のうちの終えることができました。

●運営委員一覧

◎見館好隆（北九州市立大学）
○江藤智佐子（久留米大学）
天野祿郎（MC&フューチャーコンサルティング）
有馬恵子（鹿児島純心女子短期大学）
石橋慶一（中村学園大学短期大学部）
井上奈美子（福岡県立大学）
大重康雄（志學館大学）
藤村やよい（久留米信愛短期大学）

各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡

■総務・企画委員会 委員長

関憲治（昭和女子大学）

懸案でした文部科学省所管の独立行政法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルの無料公開システム「J-STAGE」への、本学会論文の掲載が可能となりました。今後は、過去に掲載された論文と研究ノートにつきましても、段階的に登録を進める計画です。

2019年度に新設しました「ビジネス実務研究助成」では、共同研究（A）2件及び個人研究（B）6件の申し込みがあり、審議の結果、これら8件すべてを採択しました。

また、本学会が協力団体となっている日本学術会議の人事問題にも対応すべく、経営学系の55学会が加盟する経営関連学会協議会への加盟申請を行っています。

■研究推進委員会 委員長

見館好隆（北九州市立大学）

ビジネス実務能力向上のための授業設計を支援する教科書の発行は、本学会のミッションでもありました。これを、本学会から一部助成を受けて実現しました。タイトルは『新しいキャリアデザイン～ニューノーマル時代をサバイブする』です。第38回全国大会（2019年度）の基調講演にて新しいビジネス実務能力のご示唆を下されたアクセンチュア株式会社・保科学世氏も著者として参加して頂いております。是非ご活用ください。

学会員の論文執筆スキル向上を目指した、論文の書き方セミナーを実施しました。内訳は、2020年8月に「スタートアップ・研究・論文の基礎」（講師：中村健壽、坪井明彦）、9月に「量的研究法」（講師：米本倉基）、12月に「質的研究法」（講師：見館好隆）をオンラインで実施し、多くの学会員にご参加いただきました。次の2021年度も同様に学会員の論文執筆を支援するセミナーを、オンラインで開催することを検討しております。

■編集委員会 委員長

手嶋慎介（愛知東邦大学）

『ビジネス実務論集 No. 39』への投稿は18編、審査通過は10編でした。最終的には論文2編、研究ノート2編、資料4編の計8編（うち教育開発4編、理論・調査4編）となりました。今後、英文での投稿や二重投稿について等、ルールを明確にしていきます。

■広報委員会 委員長

堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）

学会報73号を予定通り2020年9月に発行。これを紙媒体による発行の最後としました。次の74号（本号）を2021年3月に発行。Facebook等のSNSによる情報発信を継続しています。

■事務局長

河合晋（岐阜協立大学）

所属、住所、会員種別、登録メールアドレスに変更があった場合、または退会ご希望の場合は、学会事務局 business.jitumu@gmail.com までご連絡いただきますようお願いいたします。特に、学生会員から正会員（一般会員）への変更届が行われていない事例が多く発生しています。円滑な事務局運営にご協力をお願いいたします。

新入会員の紹介（2020年7月～2021年2月）

■正会員

(氏名・敬称略)	(所属先)	(所属ブロック)
小山田健	北海道文教大学	北海道
鎌部浩	岐阜大学	中部
坂上牧子	金城大学短期大学部	中部
井上秀一	追手門学院大学	近畿
正岡幹之	大手前大学	近畿
梅本礼子	山陽女子短期大学	中国・四国
若原拓己	松山東雲短期大学	中国・四国
河野美香子	宮崎学園短期大学	九州・沖縄
後藤浩士	保健医療経営大学	九州・沖縄
石本雄一	三井不動産(株)	関東・東北
正田淳一	九州共立大学	中部

■学生会員

(氏名・敬称略)	(所属先)	(所属ブロック)
中根久雄	放送大学大学院	中部
庄司豊	京都大学大学院	近畿

第40回（2021年度）全国大会のご案内

統一テーマ：ニューノーマル時代の新しい教育

日時：2021年6月12日（土）、6月13日（日）

会場：北九州市立大学（北方キャンパス）

開催形式：オンライン（Zoom）

詳細については、2021年2月1日以降、各会員にメール配信されている第40回全国大会・第1号通信または学会HPをご覧ください。

日本ビジネス実務学会会報 No. 74

日本ビジネス実務学会・広報委員会

（堀口誠信・加藤由紀子・小松由美・中川雅人・坂本理郎・佃昌道・江藤智佐子）

広報委員会専用 e-mail：2019jsabs.publicrelations@gmail.com

JSABS
Japan Society of Applied Business Studies